



# こころをつなぐ まちづくり

人権シリーズ vol.164

世間体、あなたは気づいてますか？

日常生活の中で、「世間体」とか「しきたり」また「他の人が皆どうしている」というようなこと「自分の考えや行動が流されてしまっていないか？」

自分では、こつするのが正しいと思ってもなかなか実行できない、「みんながしているから」とか「昔からそうだから」という「世間体」という概念が、迷信や偏見・差別を温存させてきたのではないのでしょうか。

日本の文化は「恥の文化」に基づいていると言われています。私たちが何ごとにつけても世間体を気にし過ぎるのは「恥の文化」があるからだとされています。どうということなのかと言いますと、例えば私たちが衣服を選ぶとき、自分の気に入った服を買ったつもりなのに、よく考えこみると「周りの人はどう見るだろうか」とか「恥をかしい見られないだろうか」とか、「恥をかかないだろうか」「みんなの前で恥をかきたくない」とか、随分世間体を気にしていることがわかります。私自身、そんな気がします。ほんとはこんな色

の服がいいかな、と思いつつ、周りの人から「いい歳して」「年甲斐もなく」「なんて言われるのが嫌なので、自分の年齢を考えて控えめな色にしてしまおう」とありますね。

どうして日本人がこれ程世間体を気にするようになったのか、それには古来日本の風土、生活、文化等が複雑に影響してきているんじゃないかとされていますが、やはり、徳川幕府の差別分断政策に起因するところが大いと言えるところではないでしょうか。つまり、江戸時代の幕府や藩は、国民を身分により分断・支配するために身分制度を設け、社会の安定を保つため何事につけても「分を知れ」「分をわきまえよ」と命じ、例えば「足輕の分際」「百姓の分際」「町人の分際」と言っ

て厳しく分際を守らせ、守らない者は処罰したのです。一方、国民は、「出過ぎず」「目立たず」「分相応に」「人並みに」「世間並みに」「どうしようも」「常に目上や周囲や世間に気を遣い、分際を守るために自分の意志を殺さなければならなかった

のです。ことわざでも「出る杭は打たれる」なんてあります。

私たちは、何事にもつけ周囲を見回し、世間体を気にし、笑われないように、恥をかかないように、大過なく乗り切ろうとします。そのようなく、私たちは自分の主体性とか意思、正義といったものを見失っていることがありません。世間体を意識することがよくないと言っているではありませんが、自分の主体性を大切にし、自分の意思を通すことも大事なことでないのでしょうか？

その意味で、私たちはこの「世間体意識」というものを改めて考えてみることもいいのではないのでしょうか。

世間体にはばらばらなことがなく、流されることなく、他人の目を気にせず、常に自立した個人として、主体的に考える習慣を身につけることが大事なことでないのでしょうか。

自分は自分、ありのままの自分でいいんです。そうは思いませんか。

(文責：国見分室 有定)

市長室から  
ひびくおぼ

## 市長日記

104

「今年の風邪は長ぐさ」

国東市長 二河明史



それにしても長い長い風邪でした。ようやく喉の感触も本来の状況に戻りそうです。

11月16日の土曜日、久しぶりに午前中が空いていたので、かかりつけの医院にインフルエンザの予防接種に行きました。今年は、インフルエンザの流行が早いよ、と言われていたのですが、なかなか時間が無く、その日になったのです。体温は、36・6度で平熱でしたからそのまま注射を打ちました。

そして午後は、陸上自衛隊の第4音楽隊がアストホールでコンサートを開催してくれることになっていたので、お礼の挨拶を申しあげ、音楽隊の演奏を十分楽しんで、その日の仕事を終えたのです。自宅に戻りしばらくすると、腰のあたりにすごい悪寒が襲ってきたのです。ゾクゾクッと体中に震えが走り、あわてて薬を飲み、布団を被って丸くなって寝たのですが、震えが止まりません。こんな時は、おそらく発熱しているのです。布団を何枚もかけて、押し入れから電気アンカを引っ張り出し、アンカを抱いて丸まって寝ていると、じつじつと寝汗をかいてきました。その頃から激しい咳が始め、止まらないのです。

当然食欲はありません。妻が食事を運んできて全く食べたいと思いません。食欲が無いなどということとは私にとってはとても珍しいことなのです。

でも、妻がむいてくれた柿と梨の美味しかったこと。一口噛むと口中にほの甘い果汁がゆつくりと広がり、「ああ、生き返る」というような美味しさでした。

日曜日の二つの行事は代理を頼み、一日半布団の中でした。月曜日からは、仕事を休むことも出来ず、マスクをして、すごい声で指示をだすことになりました。

ところで、これがただの風邪なのかインフルなのか、結局分からずじまいでしたが、妻にはうつらなかつたので風邪だったのかもしれない。それにしても長い。12月7日の今日もまだ喉が変な感じ。これから更に寒くなるでしょうし、皆さんも風邪やインフルに十分ご用心ください。



## 重光葵の書簡を寄贈していただきました

安岐町在住の高橋信介さんより、重光葵の書簡を寄贈していただきました。重光葵は、第二次世界大戦中に外務大臣として活躍し、降伏文書に署名するという大役を果たしました。また戦後は国連総会で、日本が国連に加盟した際の加盟受諾演説を行いました。

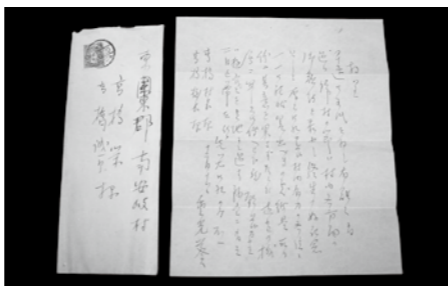
今回、寄贈された書簡は療養のため、別府に滞在していた時のもので、国東の人々との心温まる交流があったことを窺わせる御礼状です。

頂いた書簡は、山溪偉人館で保管し随時展示する予定です。大変貴重な資料を頂き有難うございました。

【問合せ先】文化財課 ☎0978-72-2677



山溪偉人館(安岐町下山口)



重光葵の書簡(御礼状)